

H.C.R. 2014 開催プログラムの内容

【プログラムNo.1】

国際シンポジウム

ヨーロッパ諸国の認知症政策の現状を踏まえ、課題に挑む～認知症への理解拡大と日本の支援活動の充実のために

★手話通訳

近年、高齢社会対策にかかわる重要施策について国家戦略を策定し、国民的な課題として社会全体で課題を共有しながら取り組みをすすめるようとする動きが活発になっています。とりわけ、認知症についてはヨーロッパ各国で国家戦略が策定されており、また、2013年12月には英国で「G8認知症サミット」が開催されるなど、世界的な共通課題となっています。

一方で、わが国においても、2013年から2017年までの「認知症施策5か年計画(オレンジプラン)」が策定されるなど、取り組みの加速化が図られています。

そこで、H.C.R.2014国際シンポジウムでは、英国から専門の講師を招き、EU各国のなかから認知症施策への先進的な取り組み経験を有する数国を選定して、当該の国々の特徴、現状や課題などを解説いただくとともに、日本の取り組みや課題と比較・対象をしながら学ぶことによって、わが国の認知症施策と支援活動の充実に資することをめざします。

【日英同時通訳付】

開催日時：平成26年10月2日(木) 13:00～16:00

会場：会議棟6F 605-608会議室

参加対象者：高齢社会の課題や政策・制度に関心のある方であれば、どなたでも参加いただけます。

講師：【ヨーロッパ諸国の状況報告】

ジョージ・W・リースン氏

オックスフォード大学高齢者研究所副所長、同大学ケロッグカレッジ上級研究員、コペンハーゲン大学客員講師

【日本の状況報告】

服部 安子氏

社会福祉法人 浴風会 浴風会ケアスクール校長

チューター：近藤 純五郎氏

一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会 理事長、弁護士、元厚生労働事務次官

参加費：1,000円

の創意・工夫の実践事例には、他の多くの福祉施設で活かせる工夫とアイデアが詰まっています。国際福祉機器展ではセミナーを開催し、多くの福祉施設関係者に各施設で取り組まれている実践事例を紹介します。

主な参加対象者：介護・福祉施設関係者など

A会場

発表事例(予定)：

- ①通所介護における介護予防の検証
- ②褥瘡0(ゼロ)26年間の実践～実現する為の3つの指標
- ③ポールで楽しむウォーキング講座の実践と成果
- ④認知症ケア～バリエーション療法を通して行動の原点を探る～
- ⑤ハートピア堺式自立支援と認知症ケア、そして選ばれるデイサービス

司会進行：湯川 智美氏 / 社会福祉法人六親会 常務理事

B会場

発表事例(予定)：

- ①肢体不自由児の側弯の予防・改善～特別支援学校における取り組み
- ②社会貢献を考える エーデル土山のCSR活動
- ③地域の方々との施設利用者の日々の交流を創出するテラス活動
- ④福祉機器を使って・さらば腰痛
- ⑤やりがいのある職場を目指して

司会進行：久木元 司氏 / 社会福祉法人常盤会 理事長

※AとBの2つの会場に分割して並行開催します(プログラム中に会場移動できます)。

※当日受付を会場前において10月1日(水)13:00より先着順にて行います。

10月2日(木)

●10:30～12:00

【プログラムNo.4】

介護で腰痛にならないための基本技術を学ぶ～ボディメカニクスの理解と活用 ★手話通訳

腰痛は介護する方々にとって大きな課題です。リフトなど機器の使用、住環境の改善、介護者の体力改善、適正な介護の仕方(技術)の習得など腰痛にならないための工夫はいくつかあります。介護をする方は、これらの要素を組み合わせることで腰痛予防をおこなっていく必要があります。

ボディメカニクスは介護時の適正な姿勢や動作を確保し、介護する側・される側双方にとって楽に安定させる技術です。実演をもって、わかりやすく説明します。

主な参加対象者：在宅で介護を行っている方、新任介護職員・ホームヘルパーなど

講師：青柳 佳子氏 / 目白大学短期大学部 生活科学科 准教授

10月3日(金)

●11:00～12:30

【プログラムNo.5】

福祉施設における感染症の知識と対応～知っておきたい感染症対策のポイント

福祉施設は利用者が集団で生活する場であり、感染症に対するきめ細かな配慮は欠かすことができません。特に高齢者や障害者は感染すると症状が非常に重くなることもめずらしくありません。福祉施設職員は感染症に対する正しい知識をもち、その予防に努めるとともに、発症時における適切な対応が求められます。

本講座では、高齢者・障害者施設における日常の感染症に関する知識と予防、発症後の対応策について学びます。

主な参加対象者：介護・福祉施設関係者のほか、テーマに関心のある一般の方々

講師：小坂 健氏 / 東北大学大学院 歯学研究科 副研究科長

●13:30～15:30

【プログラムNo.6】

社会福祉施設等を元気にする生物資源の活用～高齢者の生活の質の向上から野生動物の皮革の利用まで

人と自然の触れ合い、自然の恵みの活用といった観点から、生物多様性の豊かさが貴重な自然(生物)資源として高く評価されています。

本講座では、野菜の栽培が高齢者の生活の質の向上に役立っている例、野生動物の皮革の利用拡大が、生物多様性の保全や知的障害者の雇用確保につながる事例などを紹介しながら、福祉と環境の相互交流による相乗効果の可能性を探ります。

主な参加対象者：介護・福祉施設関係者のほか、テーマに関心のある一般の方

基調講演：社会福祉施設等を元気にする生物資源の活用
炭谷 茂氏 / 社会福祉法人 恩賜財団済生会 理事長
社会福祉施設等の環境の取り組みに関する研究会 委員長
一般財団法人 地球・人間環境フォーラム 理事長

講演1：老人施設入所者の生活の質を高める野菜栽培

永井 伸一氏 / 獨協医科大学 名誉教授

獨協中、高校の校長時代に取り組んだ屋上緑化、東日本大震災の被災地で実施しているグリーンカーテンによる省エネ事業などの経験から、みどりのもたらす様々な効果を教育や福祉の現場に取り込んでいる。老人ホームのお年寄りたちが取り組んだ野菜栽培によるクオリティ・オブ・ライフの向上について報告。

講演2：野生動物の皮革を有効活用することで広げる障害者の就労機会

田中 正幸氏 / 岡山県セルフセンター 事務局長

日本列島ではイノシシ、シカなどの野生獣が増えすぎてしまい、肉や皮の有効利用が求められている。障害者のための仕事の共同受注窓口として発足したセルフセンターでは、地域ブランド「KIBINO」と名付けたイノシシ皮のバッグやスリッパを開発。障害者の就労機会の拡大に努めている。

講演3：MATAGIプロジェクトの目指す障害者の働く場づくり

山口 明宏氏 / 皮なめしの老舗・山口産業 専務取締役
MATAGIプロジェクト事務局長

伝統的な植物タンニンを使った皮のなめし技術を野生動物の皮にも活用し、たった一枚でも受け入れてなめし、産地に送り返す運動を展開中。各地の福祉施設等で、その皮を使っただけの皮革製品づくりが広がりをみせている。捨てられている野生動物の皮の活用と一石二鳥のプロジェクトの推進役。

司会・進行：社会福祉施設等の環境の取り組みに関する研究会

2. 東展示ホールにて、先着順・自由参加(事前申込不要)で行うセミナー

特設会場C(東6ホール内)

【プログラムNo.7】

はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー

★手話通訳

「基本動作編」「住宅改修編」「自立支援編」の3編をさらに以下の10のテーマに分類して、3日間にわたりセミナーを開催します。

3日間のセミナーの概要は以下のとおりです(時間割、講師名などの詳細は、本紙5頁をご参照ください)。

10月1日(水)・住宅改修編

①トイレ・排泄用品 ②住宅改修 ③入浴機器

10月2日(木)・基本動作編

④ベッド ⑤リフト等移乗用品 ⑥杖・歩行者等補助用品 ⑦車いす

10月3日(金)・自立支援編

⑧コミュニケーション機器 ⑨福祉車両 ⑩自助具

主な参加対象者：高齢者、障害者及びその家族、新任介護職員、福祉機器企業関係者、学生など
定員：200名(※自由参加、先着順にご案内いたします。)

※副読本として、「基本動作編」「住宅改修編」「自立支援編」の3種類を本セミナー会場にて販売しています。1冊100円です。

特設会場A(東3ホール内)

【プログラムNo.8】

高齢者むけの手軽な日々の食事～惣菜やレトルト食品をおいしくバランスアップ

★手話通訳

高齢者が健康で豊かな生活を送るためには適切な食生活も重要なポイントです。

H.C.R.セミナー

1. 会議棟6Fにて、共通資料(1部1,000円)を使用して行うセミナー

10月1日(水)

●11:00～12:30

【プログラムNo.2】

高齢者の住まいについて～基礎知識と選び方

★手話通訳

2030年には3人に1人が高齢者になるという予測が公表されるなど、超高齢化へと向かうわが国において、一人ひとりの高齢者が自分に最も適した老後の生活の場と出会えるように支援し、その選択のために必要な情報を提供していくことは、重要な課題となっています。

現在、特別養護老人ホームでは多くの待機者がかかえ、とくに都市部などでは入居がとて困難になる一方で、入居する高齢者のさまざまなニーズに合わせた有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅など、施設や住宅の種類が増え、選択の幅が広がってきました。

本講座では、このように複雑で多様な高齢者向けの施設や住宅の種類や具体的なサービス内容、費用面や必要な手続き・条件などをわかりやすく解説するとともに、ご自身の状況と照らしてどのような住まいが最適なのか、その選び方のポイントを紹介します。

主な参加対象者：高齢者及びその家族など

講師：灰藤 誠氏 / 公益社団法人 全国有料老人ホーム協会 理事・事務局長

●14:00～16:30

【プログラムNo.3】

福祉施設の実践事例発表～役立つ活かせる工夫とアイデア

福祉施設の現場では、職員が利用者へ援助・支援を行うなかで創意・工夫をはかり、福祉サービスの質的改善や地域の福祉向上がはかられています。こうした質の向上を図るため

普段の食生活において健康を意識するという方の割合が、高齢者ほど高いという調査報告もみられる一方で、三度の食事作りがおくく、食材が残ってもったいない、作っても張り合いがない等の理由で、食事の回数が少ない、菓子で済ませるといった食事を疎かにする方も少なくありません。

近年、高齢者の栄養管理の重要性が様々なところで耳にします。特に寝たきりにならないためのポイントとして、適切な栄養量をバランスよく食事から取り入れること、かつ口から食べるという行為の継続が大切とされています。そのためにも、日々の食事作りの負担を軽くすることが必要であり、スーパーやコンビニの総菜や市販弁当、宅配弁当、配達サービスは簡便な食事のための強い味方です。なお、高齢になると柔らかく食べやすい食事が中心になりがちであり、味を感じにくくなるため、濃い味付けを好むようになります。それぞれの特徴を理解して上手に利用しましょう。

本企画は、「特設会場A」の特設ステージにて、毎日13:00～14:00の時間帯に「高齢者の料理講座」として開催します。

主な参加対象者：高齢者及びその家族、ホームヘルパー、在宅サービス事業者など
講師：今 寿賀子 氏／虎の門病院栄養部部長
 押田 京子 氏／虎の門病院栄養部副部長
定員：110名（※自由参加、先着順にご案内いたします。）

※H.C.R.2009から本講座で紹介してきたレシピを全て掲載した冊子を、本講座会場にて販売しております。1冊700円です。

H.C.R.特別企画

（講座・常設展示・相談・デモンストレーション、いずれも自由参加）

特設会場A（東3ホール内）

【プログラムNo.9】 障害児のための「子ども広場」

障害のある子どもの発達段階において、福祉機器の利用は成長と生活において大きな可能性を拓けるものです。そこで、子ども向け福祉機器の開発・普及を目的に「子ども広場」を会場内に設置して子ども向けの福祉機器を総合展示するとともに、福祉機器の利用や療育についての相談コーナーや、保育士が常駐するひとやすみコーナーのほか、新企画「家のなかはケンカがいっぱい！発達障害のある子どもの安全対策ひと工夫コーナー」や「子ども広場で広げよう！子どもの車いすトレーニング編」などを設けます。

1. 福祉機器展示コーナー

終日展示。本紙6頁の時間割により展示製品についての「機器説明」を聞くことができます。

運営協力：横浜市総合リハビリテーションセンター

※本紙10～11頁に本企画で展示する製品リストなどを掲載しています

2. 相談コーナー

本紙6頁の時間割により、「療育相談」と「福祉機器相談」の2名の担当が配置されます。

運営協力：横浜市総合リハビリテーションセンター

3. 家のなかはケンカがいっぱい！

発達障害のある子どもの安全対策ひと工夫コーナー

「勝手に外へ飛び出す」「台所の水を流し続ける」「TVを叩いて床に落とす」などなど、知的・発達障害のある子どもの行動特性と住環境が上手にマッチングしていないと、重大な事故につながる可能性があります。さらに、一日中子どもから目を話せない親にとっては、ストレスがたまる一方です。このコーナーでは、横浜市が実践している知的・発達障害のある子どもへの住宅改修事例を多数紹介しながら、家庭のなかでも簡単に活用できるスケジュールボードをラミネート加工で作成できる体験コーナーを設けます。

目からウロコがおちるような情報満載の本企画に、ご期待ください！

日程：10月1日（水）～3日（金）の各日13:00～15:00に専門職が相談に応じます

協力：横浜市総合リハビリテーションセンター：一級建築士・臨床心理士・保育士ほか

※本紙12頁に関連の写真映像などを掲載しています

4. 子ども広場で広げよう！！

子どもの車いすトレーニング編

「車いすって疲れる」「うまくいきたくいところにいけない」そんな悩みを持っていませんか？正しい技術や乗り方・漕ぎ方を知ればそんな悩みも解消されます。

姿勢が変わるだけで、車いすの操作のしやすさは変わります。

漕ぎやすい姿勢に調整・アドバイスをいたします。

ハンドリムの握り方や漕ぐときの腕の使い方にも様々なポイントがあります。今よりもっと楽に、早く、遠くに。自分の力で動きたいというお子さまの世界を広げるために正しい技術をお伝えします。各メーカーの車いすも試乗できます。ご家族でぜひご参加ください。

日程：10月3日（金）

参加定員：15名

プログラム：①12:30～13:00 車いす試乗・調整
 ②13:00～14:45 車いすトレーニング
 ③14:45～15:15 商品紹介

協力：横浜市総合リハビリテーションセンター
 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会

※本紙11頁に本企画で使用する製品リストなどを掲載しています

5. ひとやすみコーナー

保育士が常駐しています。広場のおもちゃを使って子どもたちと遊んだり、保護者（親）のみなさんと子育てについてお話ししましょう。

運営協力：東京都社協保育士会

【プログラムNo.10】

ふくしの相談コーナー

技師、作業療法士などの専門家が、福祉機器や自助具に関わる来場者の相談に無料で応じます。

運営協力：日本作業療法士協会、大阪府肢体不自由児協会
 会大肢協ボランティアグループ自助具の部屋

【プログラムNo.11】

高齢者・障害者等の生活支援用品コーナー ～旅を楽しむ「10のコツ！」と便利なグッズ展～

思いがけない体験、心に残る思い出…。旅は多くの人にとってワクワクする楽しいイベント。年齢の高低や身体状況にかかわらずもっと旅に出かけたい、みんなと一緒に旅を楽しみたい、そんなときに立つ「10のコツ！」とコツに関する約60点のグッズを集めました。

「旅に関するよかったこと」調査や旅の達人に聞いたコツ、そして、出展社の製品から選んだ「旅に役立つグッズ」をシーンごとに展示いたします。

「旅のコツ」は、旅に持っていくモノ、旅で工夫しているコトに関するアンケートをもとに、高齢者や障害のある人たちが旅を楽しむヒントや工夫を10か条にまとめたものです。準備、移動、会話、食事や温泉など旅の各場面でのコツと役に立つと思われるグッズをどうぞご覧ください。

- 「旅の準備のコツ！とモノ」…カバンと整理のコツ／など
- 「移動のコツ！とモノ」…両手をフリーにするモノ／など
- 「会話のコツ！とモノ」…はっきり伝える会話のコツ／など
- 「旅に役立つコツ！とモノ」…コンパクトで便利なモノ／など

ご覧いただいたように実は普段使っているモノのなかにも、アイデア次第で旅にも使えるいろいろな工夫があります。どうか、手にとって、試してみただけだったらと思います。きっと、なかには、家族やお友だちに紹介したくなるモノもたくさんあるはずです。

楽しい旅をつくる「10のコツ！」と便利なグッズを参考に、さあ、みんなで旅に出てみませんか！

企画・監修：共用品推進機構

運営協力：NTTクラリティ、高齢社

※本紙13～15頁に本企画で展示する製品リストなどを掲載しています

【プログラムNo.12】

福祉機器開発最前線 （デモンストレーションに★手話通訳）

企業・研究機関の研究開発、試作状況などの情報提供や紹介の場として、最新の機器や製品・ロボットの展示及びデモンストレーションを行います。

今年は、経済産業省のロボット介護機器開発・導入促進事業の対象製品を10点、厚生労働省の障害者自立支援機器等開発促進事業の対象製品を2点の合計12点の展示及びデモンストレーションを予定しています。

※本紙16～19頁に本企画で展示する製品の情報やデモンストレーションのプログラムなどを掲載しています

特設会場B（東6ホール内、ガレリア入口横）

【プログラムNo.13】

アルテク講座2014 ～身の回りにおけるテクノロジー（アルテク）で創る

豊かで楽しい生活

★手話通訳

多くの人の身の回りにおけるテクノロジー（アルテク）を用いることで、障害がある人の生活が大きく変わります。

たとえば、印刷物を読めない人でも電子書籍や電子新聞であれば簡単に読むことができます。音声が使えないためにコミュニケーションに不自由を抱える人もスマホでチャットを楽しみ、アプリを入れれば音声で会話することも可能です。そのほか、鉛筆を持っていないなどの理由でメモをとれない人はICレコーダやデジカメを上手く活用すれば記録がとれるなど可能性は大きく広がっています。

このセミナーでは誰もが日常活用しているスマホ、タブレット、パソコン、ICレコーダ、デジカメなどのICT（情報通信技術）製品を、障害のある人の生活や学習支援に活かすアイデアとともに紹介します（時間割、講師名などの詳細は、本紙9頁をご参照ください）。

講座テーマ

10月1日（水）

- ① スマホやタブレットをコミュニケーションエイドに変える～アルテクを用いた言語障害のある人の生活支援
- ② 身の回りにおけるテクノロジー（アルテク）が支援技術に変わる～支援技術を使いこなすための障害理解
- ③ アルテクを読み書きなど学びのツールに変える～アルテクを用いた発達障害や認知障害のある人の生活支援

10月2日（水）

- ④ スマホやタブレットを視覚障害の福祉機器に変えるアプリ～アルテクを用いた視覚障害のある人の生活支援
- ⑤ スマホやタブレットのアクセシビリティ～肢体不自由の人がスマホやタブレットを使いこなす
- ⑥ Windowsパソコンのアクセシビリティと応用～アルテクを用いた障害のある人の生活支援

10月3日（水）

- ⑦ 障害者差別解消法とアルテクの意味～合理的配慮の1つとしてのアルテク
- ⑧ 障害者雇用とアルテク～障害者雇用現場でのアルテク活用の実例
- ⑨ ゲーム用カメラを生活支援ツールに変える～重度肢体不自由や重複障害のある人の生活支援

東4ホール内／小間番号：4-08-05

【プログラムNo.14】

被災地応援コーナー

昨年に引き続き、東日本大震災で特に被害の大きかった東北3県（岩手県、宮城県、福島県）のセルブ（障害者授産施設）の製品を販売いたします。

注1) 題名の横に★手話通訳 マークのついたプログラムは、手話通訳を行います。

注2) H.C.R.セミナー、特別企画への参加自体に係る費用は無料です。

第41回国際福祉機器展 H.C.R. 2014

主催 全国社会福祉協議会 保健福祉広報協会

後援 厚生労働省 経済産業省 総務省 国土交通省 東京都、海外参加国大使館（順不同）

協賛 NHK厚生文化事業団、読売光と愛の事業団、毎日新聞東京社会事業団、産経新聞厚生文化事業団、日本経済新聞社、東京新聞、東京新聞社会事業団、朝日新聞厚生文化事業団、福祉新聞社、日本赤十字社、福祉医療機構、鉄道弘済会、東京都社会福祉協議会、全国心身障害児福祉財団、長寿社会開発センター、シルバーサービス振興会、テクノエイド協会、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、日本アビリティーズ協会、日本障害者リハビリテーション協会、日本リハビリテーション医学会、新エネルギー・産業技術総合開発機構、みずほ教育福祉財団、麒麟福祉財団、清水基金、みずほ福祉助成財団、松翁会、丸紅基金、三菱財団、損保ジャパン記念財団、中小企業基盤整備機構（順不同）

期日 平成26年10月1日（水）～10月3日（金）【3日間】
 午前10時～午後5時

会場 東京国際展示場「東京ビッグサイト」
 東展示ホール
 （東京都江東区有明3-11-1）